

愛しの 寒田暮らし

life in SAWADA my love

TAKE
FREE



愛しの寒田暮らし

life in SAWADA my love



福岡県東部に位置する、築上町。

町内で最も深い谷・城井谷の奥に、寒田地区はあります。

平均年齢六十五歳以上、人口およそ百五十人、面積は十八・八平方キロメートル。

一万平方キロメートルあたりの人口密度でいえば、東京二十三区はおよそ一万五千人、福岡市はおよそ四千人、そして、寒田地区はおよそ九人になるそうです。

小学校は廃校になり、コンビニエンスストアはありません。人よりも、鹿や猪やアナグマなど、獣の方が多いでしょう。冬には、雪用タイヤが必須なほど雪が降ります。生活しやすく便利とは言い難い土地です。

それでも、ここにしかない暮らしがあります。

豊かすぎる自然は、四季を感じられる景色を作ってくれます。肥えた土壤と綺麗な山の水は、美味しいお米や野菜を育ててくれます。明かりの少ない夜は、満天の空を見せてくれます。寒さの厳しい冬は、土地の名がついた郷土菓子を生んでくれました。

都会の喧騒の中では気づけないような小さな愛しさが、この集落にはたくさん散りばめられていました。

ぜひ、この本をきっかけに寒田地区の暮らしを覗いてみてください。そしていつの日かあなたが訪れてくれる日を、のんびりと、お待ちしています。



季節を肌で
感じる土地。

寒田地区では紅葉が有名だが、秋以外にも季節を感じさせてくれる植物が多く生息している。厳しい冬を越えた後に平地よりも遅れて咲く桜、近年新たにキャンプ場に植えられたミモザ、昔から咲き続ける藤、あちらこちらの道端に咲く彼岸花など。鮮やかに四季を彩る木々や花々で溢れている。





佐藤商店

寒田地区には昔、10を超える数のお店があったそう。しかし、現在も続いているのは佐藤商店1軒のみ。佐藤商店が始まったのは、なんと80年ほど前から。ここには、お菓子やお肉などの食料品、シャンプー、洋服など、さまざまな日用品が取り揃えられている。また、買い物ができる場所でありますながら、寒田のおばあちゃんたちの集い場としても重宝されている。佐藤商店には、「立ち話もなんだから」と、座布団の用意まで。「最近の○さん見らんね」といった会話も生まれ、自然と高齢者の孤独死を防ぐ役割を担っているようだ。

(住)福岡県築上郡築上町大字寒田794

(時)11時半～17時半

(休)水・日曜日

(電)0930-54-0820

観光と暮らしが
交差する。



まこちの里／ 牧の原キャンプ場

福岡県森林浴百選にも選ばれたキャンプ場が、寒田地区にある。令和四年からテントサイトがオープン、それに伴い通年営業となり、観光客の集まる場所となっている。また、キャンプ場内にある物産館、まこちの里では、観光客だけでなく地域住民にとっての憩いの場にもなっている。老夫婦が昼食を食べ、川遊びをした子どもがくじを引き、おばあちゃん二人組がクリームソーダを飲む。ここは、観光と暮らしが交差する場所。静かにゆるやかにつながる場所である。

① 福岡県築上郡築上町大字寒田2005-2

② 時 11時～17時

③ 休 火・水曜日、年末年始（7～8月のみ無休）

④ 0930-54-0111



寒田産野菜

寒田産野菜の生産者のうちの一人に、尾崎さんという人がいる。尾崎さんは、寒田地区に住んでいるわけではない。野菜作りのため、ほぼ毎日約20km軽トラを走らせ、寒田地区に通うのだ。寒田地区での野菜作りの魅力は、肥えた土壌や綺麗な山の水だけではない。冬には寒さが厳しく、尾崎さん自慢のちぢみほうれん草や白菜、白ネギ、里芋などが美味しくできあがる。尾崎さんの野菜の目印は、「寒田産」と書かれた赤いシールだ。

また、まごちの里と連携した収穫体験イベントや、町内の子ども食堂への提供も行っている。

(販)メタセの杜、京築めぐみの郷、ルミエール椎田店など

こだわりを
追求できる場所。



自分が生み出したものが
いつしか、地域の名物になつた。

寒田こんにゃく

山から流れてくる水を、地下八十メートル地点から汲み上げる。寒田こんにゃくの美味しさはこの水に秘密があると、生産者の加藤さんは言う。化学調味料を使用せず、こんにゃく芋、水、灰汁のみでできたこんにゃくは、まさに素材の味を生かした逸品。また、使用しているこんにゃく型や釜すらも、以前鉄鋼関係の仕事をしていた加藤さんの手作りである。

(販)まこちの里、メタセの杜、京築めぐみの郷など

寒田のおふくろの味は
これで決まり。

寒田おふくろ漬け

旦那さんが作った野菜を、奥さんが漬けて完成する、寒田おふくろ漬け。にんじん、なす、大根、きくいも、こしょうの葉、柚子の皮などさまざまな種類があり、ご飯のお供としても、お茶請けとしても楽しめる美味しい味噌漬けだ。味噌漬けと一言に言っても、いくつもの工程があり、たくさんの隠し味が。それは、シンプルだけど、特別な味。「きっと同じようなやり方で他の人が漬けても、この味は出らんと思う」と、生産者の宮崎さんは語ってくれた。

（販）まちの里、メタセの杜、京築めぐみの郷など



伝統は続くよ
どこまでも。

寒田あられ

寒田地区では、冬になるとあられ作りが始まる。もち米、塩、炭酸、色粉を基本の材料とし、それに砂糖やゴマなどを加え、各家庭の味を出した。短冊状に切られたあられを干す様子は、まるでカラフルな絨毯を敷き詰めたよう。昔はあたりまえにどの家もあられを作っていたが、高齢化が進み、今では数軒ほどしか残っていない。そんな中、ある若者が地域のおばあちゃんの味を受け継ぎ、新たに作り始めた。こうして伝統は続していく。受け継がれていく。

（販）まこちの里、メタセの杜、京築めぐみの郷など



寒田神楽

寒田地区内にある山靈神社で火災が起きた際、神職が火を鎮めるため呪文をとなえたことから神楽の奉納が始まったと言われている。神楽には、鬼に抱かれた子どもは健やかに育つという言い伝えがあり、寒田神楽でも同じような光景が。大泣きする子どもも、それを見て大笑いする大人たち。寒田神楽は、神事でありながら、地域の人を喜ませ喜ばせる役割も担っている。

教えてくれること。
神楽が



Coffee Stand 積糊

真っ青な瓦屋根が目印の Coffee Stand 積糊は、空き家をセルフリノベーションしたおひとりさま向け珈琲店。宮沢賢治『銀河鉄道の夜』の世界観溢れる店内で、都会の喧騒を忘れることができる。元々は築上町に縁もゆかりもなかつた店主。いざ住み始めてみると、この自然に囲まれた寒田が、自分にとって心地よい場所だと気づいた。人混みに疲れた人に紹介したい、でも、自分だけの秘密の場所にしておきたい。そんな、珈琲店。

①福岡県築上郡築上町大字寒田1883

②10時～日暮れまで

③不定休



ここはまだ旅の途中?
新しい暮らしのつくりかた。





ヨソモノより愛をこめて

寒田を知って2年、週に3~4回通うようになって1年が経ちます。この本の中でも述べたように、寒田に便利な暮らしありません。ですが、ひとつひとつの季節を見て、作って、食べて、感じる暮らしがありました。それは寒田の人たちにとって特段珍しいことではなく、当たり前のことで。でも、私にとってはとても愛おしい暮らしに思えました。

寒田の人は地元愛に溢れています。寒田のお米や野菜の美味しさに自信を持っていますし、寒田にしかない文化や風景に誇りを持っています。私は、寒田の人のそういうところが好きです。気づけばヨソモノの私も「寒田最高！」と言って回るようになっていました。この本に書ききれなかった寒田の魅力はまだまだあるのですが、ひとまずこの本に込めた「寒田最高！」の思いが、どこかに伝わることを心より願っています。

福岡県築上町地域おこし協力隊 加藤詩乃

制作 福岡県築上町地域おこし協力隊 加藤詩乃

発行元 築上町役場まちづくり振興課地域係

発行日 2024年3月